



# 2015年3月期 第1四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2014年8月6日

# 本日のご説明内容

I.

**2015年3月期 第1四半期 決算概要**

II.

**2015年3月期 第2四半期 業績予想**

# エグゼクティブサマリ

## I. 2015年3月期 第1四半期 決算概要

- 半導体売上高は、堅調な自動車向けや汎用品の売上増などにより、前四半期比4.9%増の2,012億円
- 営業損益は、6四半期連続で黒字を確保し、これまで実行してきた構造改革の効果が表れ始めているものの、作り貯めによる損益押し上げ要因もあり、実力での黒字基調の定着にはもう一段の構造改革が不可欠

## II. 2015年3月期 第2四半期 業績予想

- 半導体売上高は、前四半期比2.2%減の1,968億円を見込む
- 営業損益は、上期末の費用集中などにより、前四半期比80億円減を見込むも190億円の黒字の見通し
- 四半期純損益は、前四半期比144億円減となる68億円の黒字を見込む

# I. 2015年3月期 第1四半期 決算概要

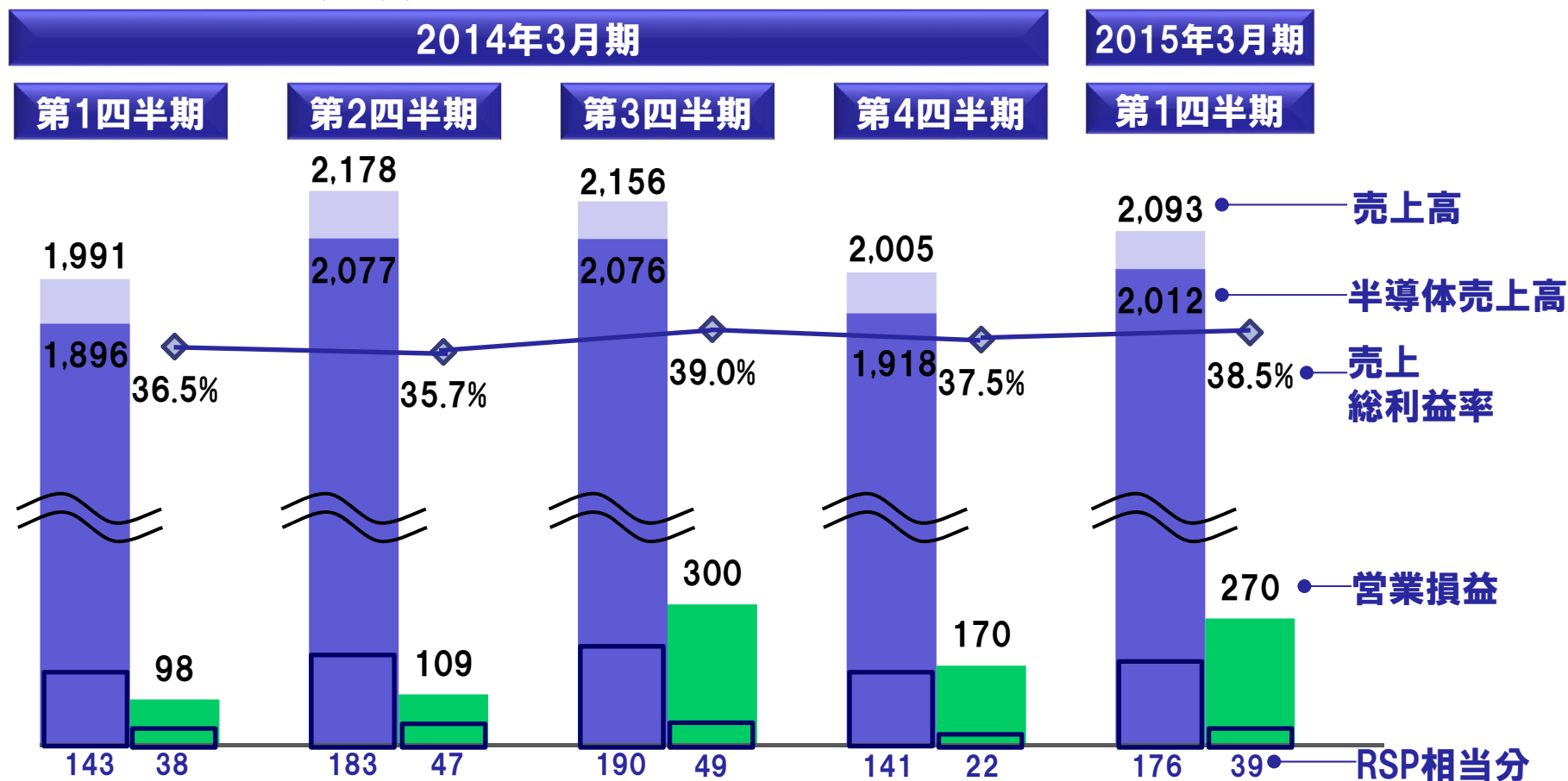
## 2015年3月期 第1四半期 決算概要

- 半導体売上高は、堅調な自動車向けや汎用品の売上増などにより、前四半期比4.9%増の2,012億円
- 営業損益は、売上増に伴う利益増などにより、前四半期比100億円増の270億円

(億円)	2014年3月期		2015年3月期			
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	前年同期比	前四半期比	5/9予想比
売上高	1,991	2,005	2,093	+102 (+5.1%)	+88 (+4.4%)	+73 (+3.6%)
売上総利益(率)	727 (36.5%)	752 (37.5%)	805 (38.5%)	+78 (+2.0Pt.)	+53 (+1.0Pt.)	+50 (+1.1Pt.)
半導体売上高	1,896	1,918	2,012	+116 (+6.1%)	+94 (+4.9%)	+52 (+2.7%)
営業損益	98	170	270	+172 (+175.9%)	+100 (+59.0%)	+70 (+34.9%)
経常損益	85	154	253	+168 (+196.8%)	+100 (+64.8%)	+78 (+44.8%)
四半期純損益	△40	△155	212	+252	+367	+72
(参考) 特別損益	△87	△275	△9	+78	+265	+1
1 US\$ =	98円	103円	102円	4円 円安	1円 円高	2円 円安
1 ユーロ =	127円	141円	141円	14円 円安	—	5円 円安

## 四半期業績推移 (億円)

- 2015年3月期第1四半期の半導体売上高は、自動車や産業用途などで好調を維持し、前四半期比4.9%増、前年同期比6.1%増
- 譲渡予定のルネサスエスピードライバ(RSP)相当分を除くと半導体売上高は前四半期比3.3%増、前年同期比4.7%増
- 営業損益は、構造改革による固定費削減が寄与し、6四半期連続で黒字を確保したが、これまでRSPの貢献度大



## 2015年3月期 第1四半期 半導体売上高の事業別状況①

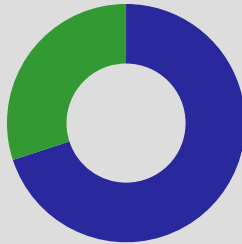
- 事業ドメインをプロダクト軸からアプリケーション軸に変更したことに伴い、2015年3月期から自動車(車載制御、車載情報)、汎用(産業・家電、OA・ICT、その他汎用品)の区分にて情報開示
- 第1四半期は、前年同期比では自動車が売上増を牽引し、前四半期比では汎用が牽引

(億円)	2014年3月期		2015年3月期		
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	前年同期比	前四半期比
半導体売上高 計	1,896	1,918	2,012	+116 (+6.1%)	+94 (+4.9%)
自動車	726	785	798	+72 (+10.0%)	+13 (+1.6%)
汎用	1,152	1,120	1,198	+46 (+4.0%)	+78 (+6.9%)
その他半導体	18	13	16	△2 (△12.0%)	+3 (+27.2%)

## 2015年3月期 第1四半期 半導体売上高の事業別状況②

### 自動車

車載情報  
約30%



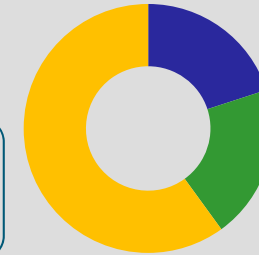
車載制御  
約70%

- 第1四半期は自動車生産の裏期にあたるも、堅調な個人消費を背景に世界的に自動車販売が好調で、自動車向け半導体市場は安定成長
- これにより、車載制御の売上は前四半期比+1桁%台前半、車載情報の売上は同フラットと堅調に推移し、自動車全体でも+2%の増収

### 汎用

その他汎用品  
約60%

含む  
中小型ドライバIC  
約15%



産業・家電  
約20%

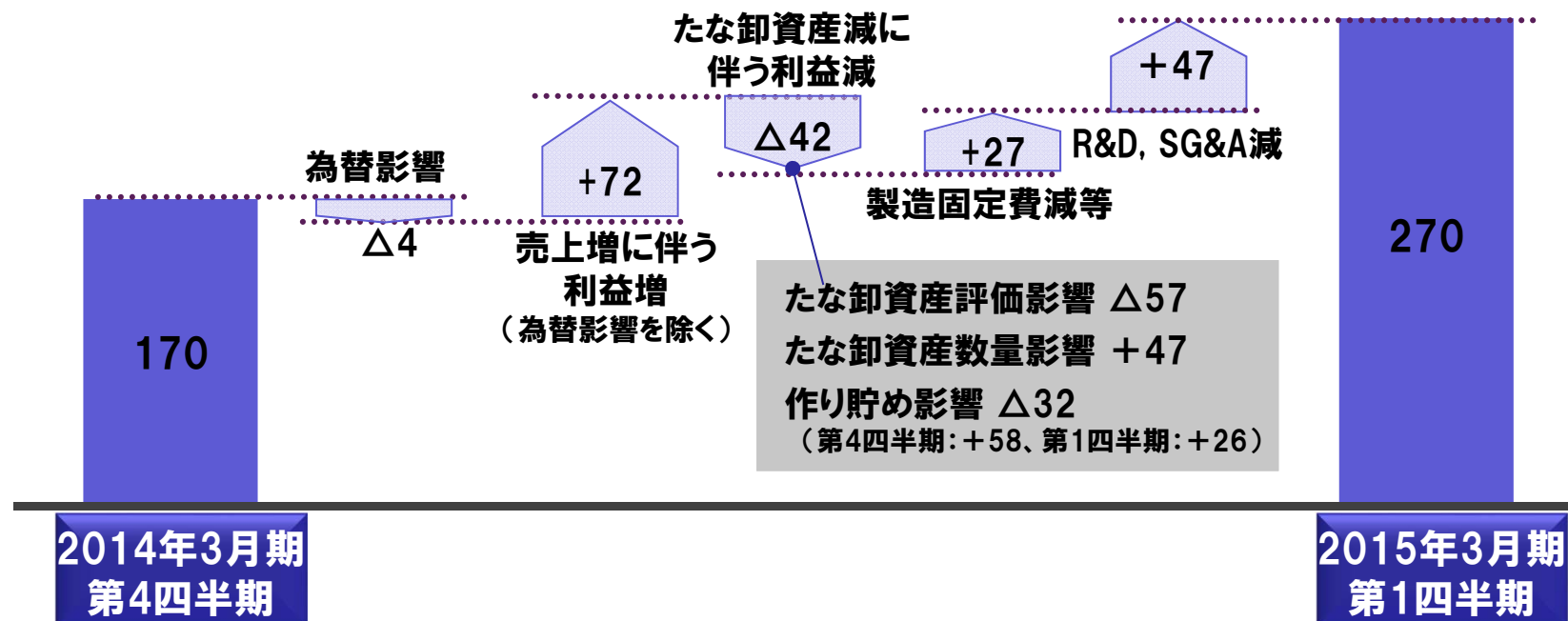
OA・ICT  
約20%

- 回復基調が続く世界経済の下、設備投資や半導体ユーザーの部品調達が活発化し、個人消費も堅調
- これにより、その他汎用品の需要が拡大したことから、その他汎用品は前四半期比+5%強の増収
- その他汎用品の内、特に中小型ドライバICの伸びが前四半期比+約30%と大
- 産業・家電は前四半期比+1桁%台半ば、OA・ICTは前四半期比+約10%の増収
- 汎用全体では+7%の増収



# 2015年3月期 第1四半期 営業損益（前四半期比）（億円）

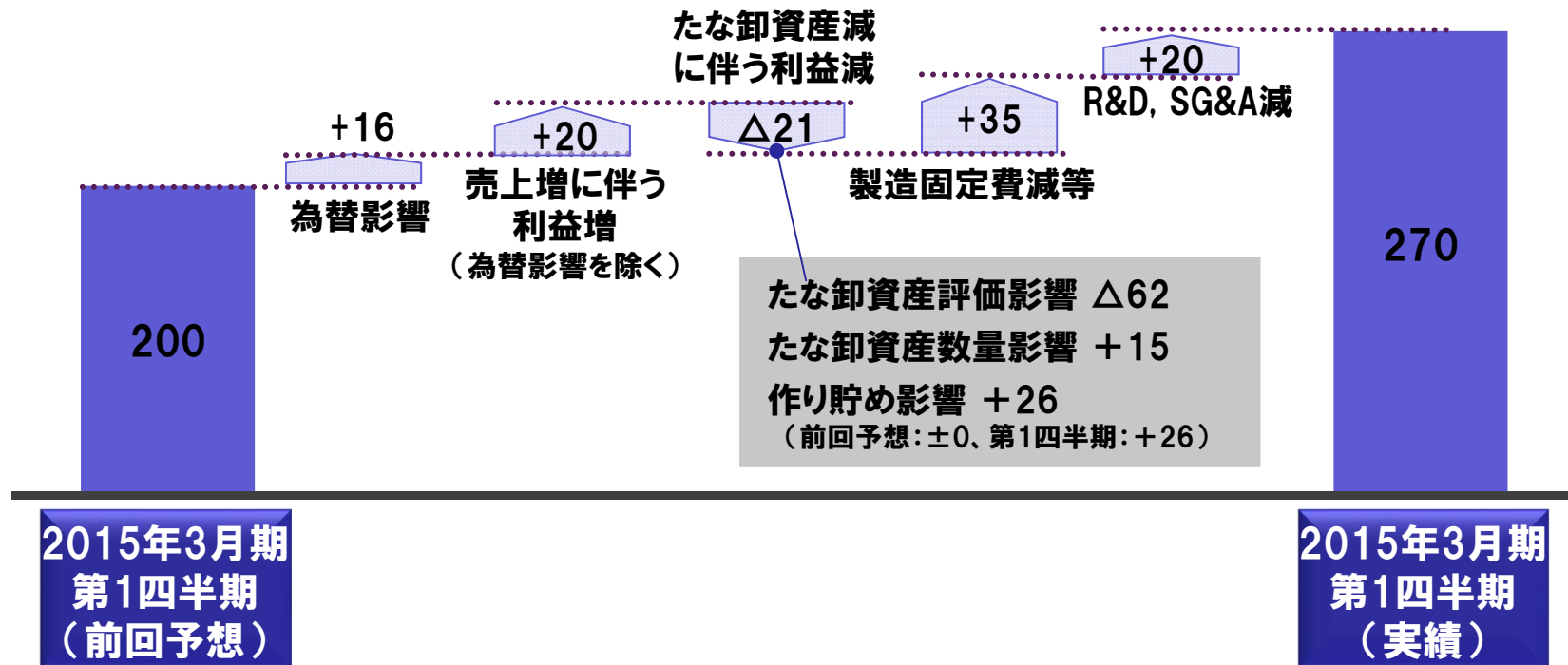
- たな卸資産は、作り貯めによる押し上げがあったものの、トータルでは前四半期比で減少し、利益減
- 一方、売上増に伴う利益増や期末での費用集中の反動もあり、前四半期から100億円黒字が拡大



\*R&D: 研究開発費 \*SG&A: 販売費および一般管理費

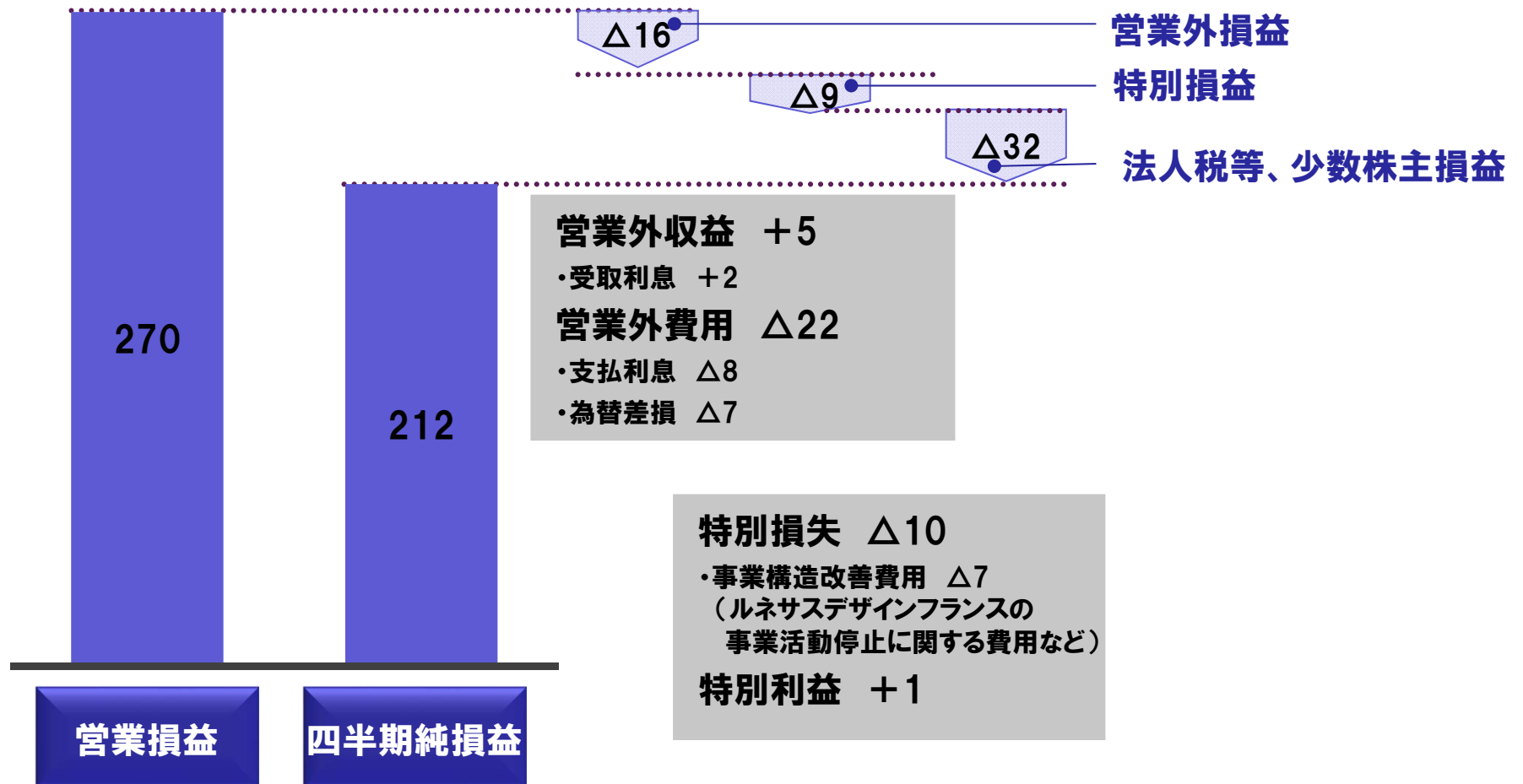
# 2015年3月期 第1四半期 営業損益 (5月9日予想比) (億円)

- 営業損益は、価格改善や収益志向の徹底による費用発生抑制などにより、想定比では70億円改善



# 2015年3月期 第1四半期 四半期純損益（億円）

- 想定どおり大きな特別損失はなく、四半期純損益は前四半期比、前年同期比ともに大幅に改善



## バランスシートの状況

- 当期利益を計上する一方、改正退職給付会計基準の適用により自己資本がやや減少
- 当期利益の積み上げにより、自己資本比率30%台への回復を図っていく

(億円)	2014年3月末	2014年6月末
総資産	7,860	7,969
うち 現金及び現金同等物	2,659	2,518
うち たな卸資産	1,261	1,181
負債合計	5,587	5,734
うち 有利子負債	2,709	2,701
株主資本	2,206	2,167
純資産合計	2,273	2,235
D/Eレシオ (グロス)	1.26倍	1.29倍
D/Eレシオ (ネット)	0.02倍	0.09倍
自己資本比率	27.3%	26.3%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。

②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」

③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

## キャッシュ・フローの状況

- 構造改革の推進により営業利益を確保したものの、売上債権流動化の停止や早期退職優遇制度実施に伴う退職金の支払いにより、フリー・キャッシュ・フローは赤字

(億円)	2014年 3月期				2015年 3月期
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	284	90	339	224	20
投資活動による キャッシュ・フロー	△25	△65	△34	△68	△109
フリー・キャッシュ・フロー	259	25	305	156	△89

## II. 2015年3月期 第2四半期 業績予想

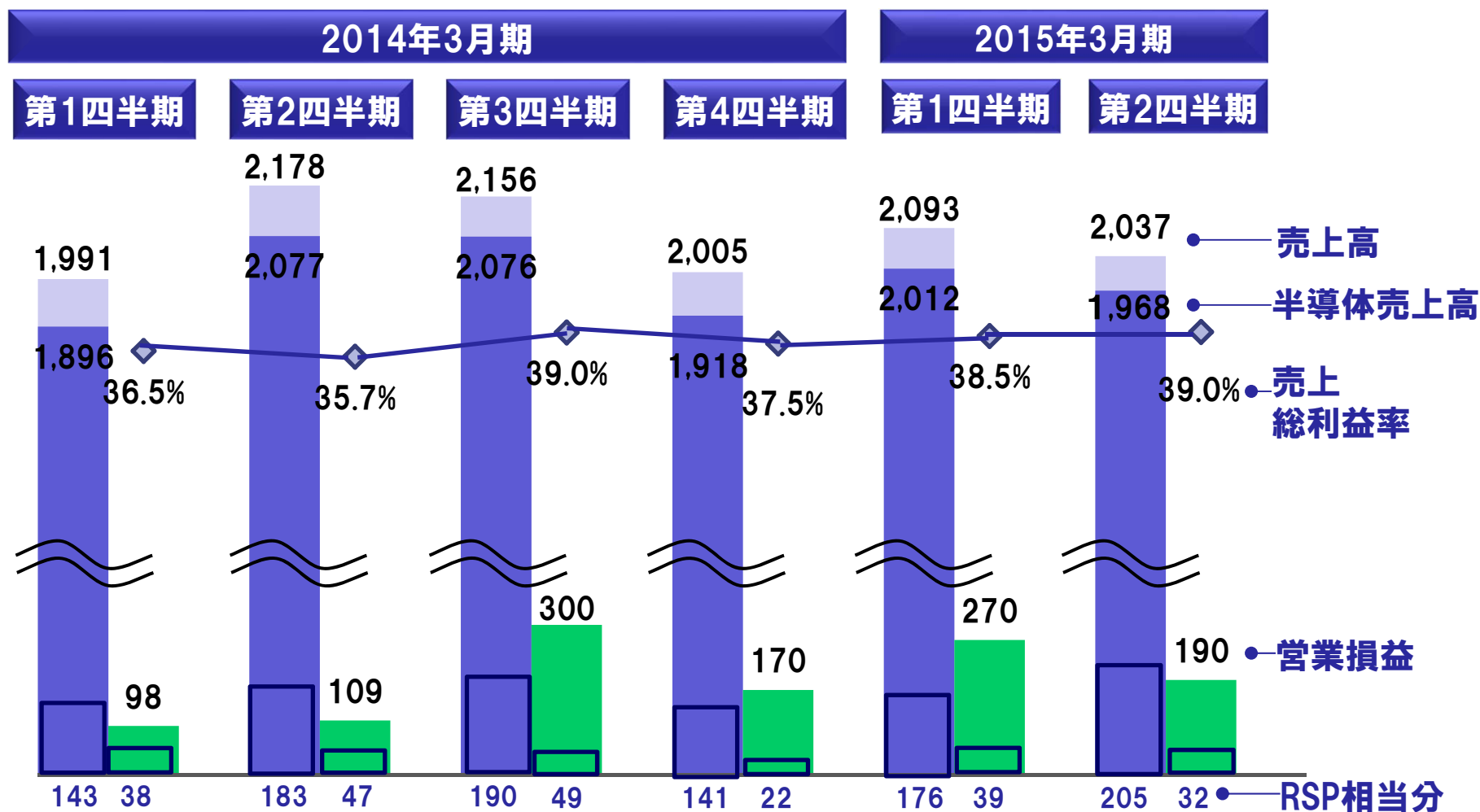
## 2015年3月期 第2四半期 業績予想

- 半導体売上高は、前四半期比2.2%減の1,968億円を見込む
- 営業損益、経常損益、四半期純損益は全て前四半期比では減益を見込むも前年同期比では増益を見込み、前四半期に引き続き黒字となる見通し

(億円)	2014年 3月期	2015年3月期				
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前年同期比	前四半期比	上期
売上高	2,178	2,093	2,037	△141 (△6.5%)	△55 (△2.6%)	4,130
売上総利益(率)	779 (35.7%)	805 (38.5%)	795 (39.0%)	+16 (+3.3Pt.)	△10 (+0.5Pt.)	1,600 (38.7%)
半導体売上高	2,077	2,012	1,968	△109 (△5.3%)	△44 (△2.2%)	3,980
営業損益	109	270	190	+81 (+74.3%)	△80 (△29.5%)	460
経常損益	54	253	157	+103 (+191.5%)	△97 (△38.2%)	410
四半期純損益	△88	212	68	+156	△144 (△67.9%)	280
(参考) 特別損益	△112	△9	△41	+71	△31	△50
1 US\$ =	98 円	102円	102円	4円 円安	—	102円
1 ユーロ =	130 円	141円	139円	9円 円安	2円 円高	140円

# 四半期業績推移 (億円)

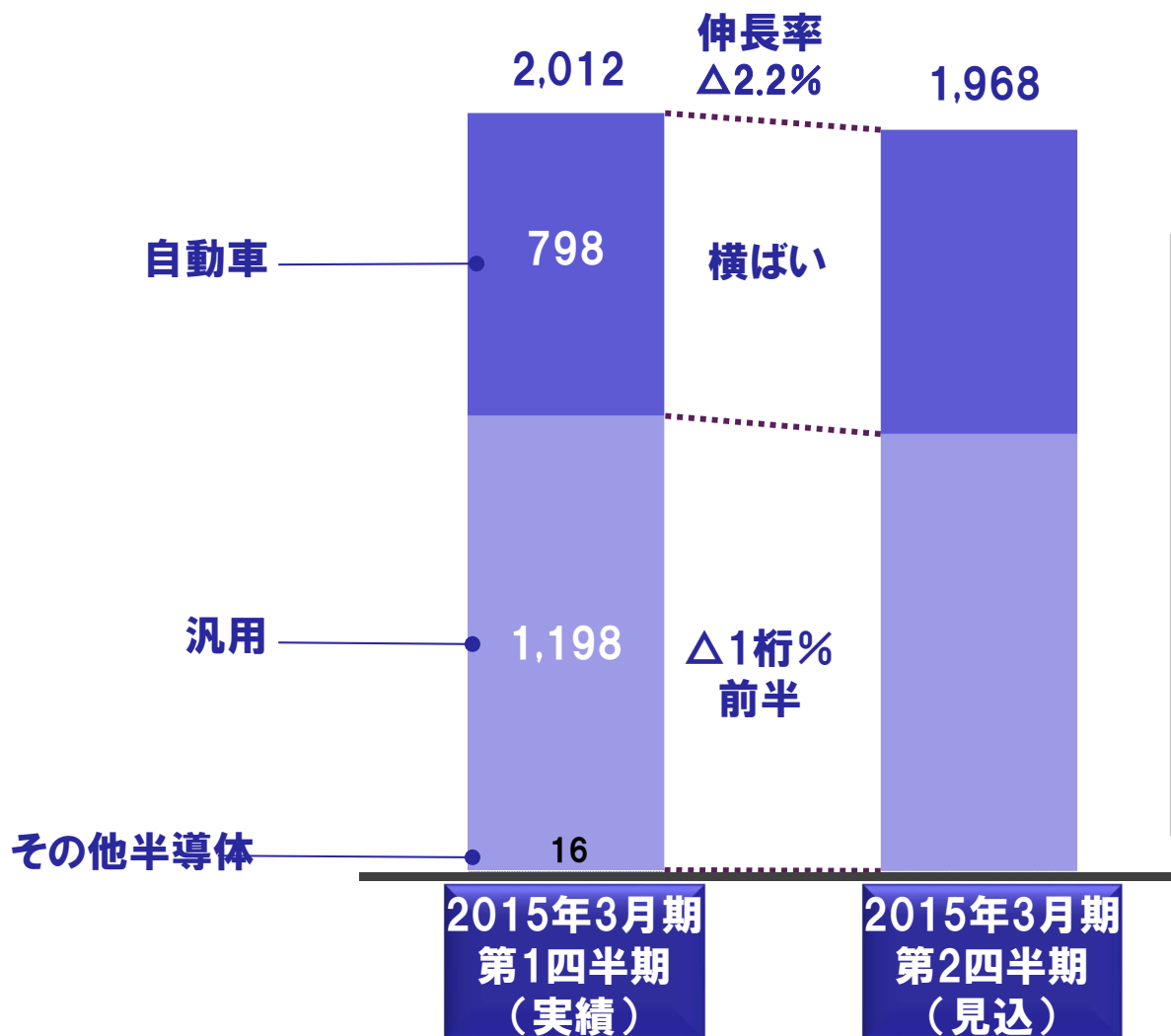
- 譲渡予定のルネサスエスピードライバ (RSP) 相当分を除くと半導体売上高は前四半期比3.9%減、前年同期比6.9%減
- 営業損益も黒字を見込むが、RSPの寄与分が15%強を占める





# 2015年3月期 第2四半期 半導体売上高見通し(前四半期比) (億円)

■ 自動車は堅調維持で横ばいも、汎用が前四半期比1桁%前半の減収を見込む



## 2Qの主な増減要因

### 自動車

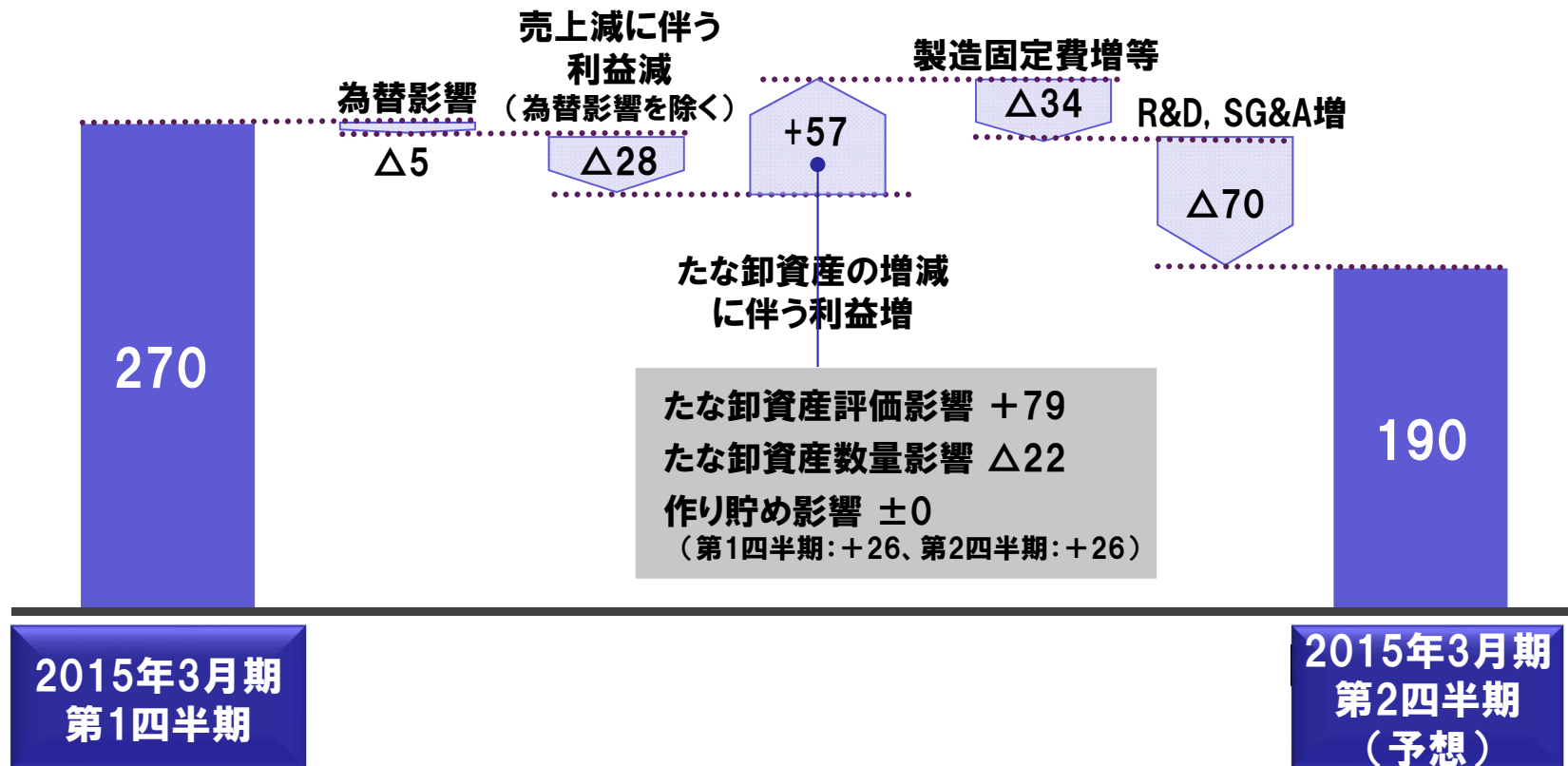
- 車載制御、車載情報ともに横ばいとなる見込み

### 汎用

- 中小型ドライバICは需要増も汎用品は前四半期比減
- OA・ICTは前四半期比横ばい
- 産業・家電は前四半期比減の見込み

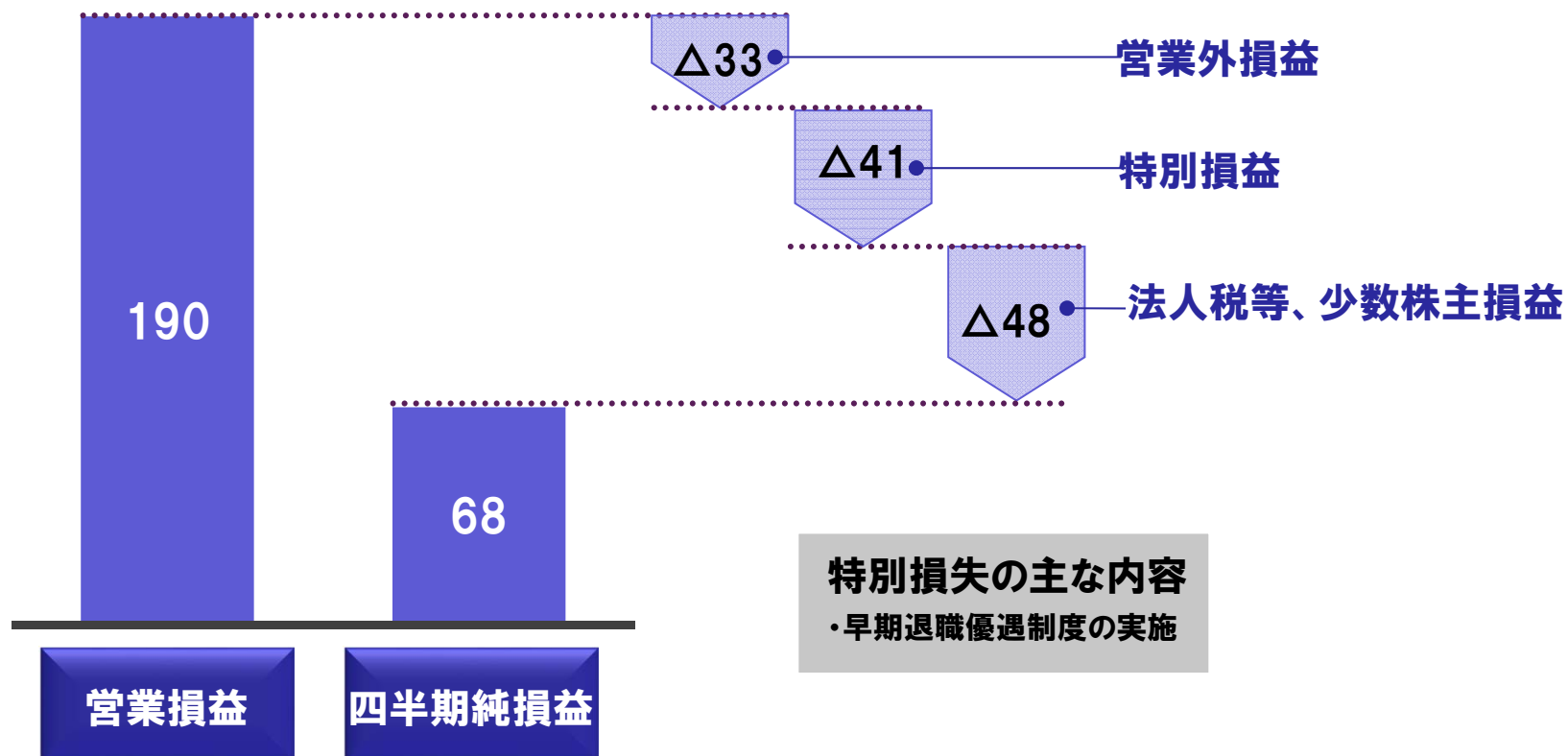
# 2015年3月期 第2四半期 営業損益見通し(前四半期比) (億円)

- たな卸資産がフラットに推移することで利益増を見込むが、売上減に伴う利益減や上期末の費用集中により、前四半期比80億円減の予想



## 2015年3月期 第2四半期 四半期純損益見通し（億円）

- 第2四半期は早期退職優遇制度の実施に伴う特別損失などを見込むも四半期純利益は68億円と前年同期比156億円増で黒字を達成する見通し



(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.